

「GIGAスクール構想」への

学校現場の取組

さいたま市立桜木小学校

校長 塚 数 太

今回のコロナウイルスや自然災害時のような緊急時においても「子どもたちの学びを止めない」ために、ICTの活用により、全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早期に実現することとなりました。一人1台の学習用コンピュータ整備により、「ICTの特性を生かした新たな学び」がスタートし、今までの授業の在り方が変わる年となり、従来の授業のスタイルからの変革が求められています。

これまでの教育実践の蓄積として、一斉指導・個別学習・協働学習があげられます。そこにICT機器を活用することで、学習活動の一層の充実が図られ、主体的・対話的で深い学びの視点において効果を発揮します。

具体的には、「一人1台端末」の環境において、一斉指導では、教師は授業中でも一

人ひとりの反応が把握でき、きめ細やかな指導等、双方向型の授業展開が可能になります。個別学習では、各人が同時に別々の内容を学習でき、学習履歴が自動的に記録されます。理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能になります。協働学習では、一人ひとりが記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できます。また、各自の考えを即時に共有し、共同編集ができます。まとめた内容も

「一人1台端末」を活用して、2〜4人の少人数でのプレゼンでも使用でき、多様な意見にも即座に触れることができます。その他にも「一人1台端末」

の活用によって充実する学習例があげられます。調べ学習としての活用において、課題や目的に応じて、インターネット等を用い、記事や動画等の様々な情報を主体的に収集・整理・分析などを行います。また、遠隔教育として、大学・海外・専門家との連携、過疎地や離島の子どもたちが多様な考えに触れる機会、入院中の子どもと教室をつないだ

学びなどがあげられます。このように、様々な場面に応じて、活用範囲が広がり、個別最適な学びにつながっていきます。

以上のように、今までの教育実践と最先端のICTのベネフィットを最大限に引き出し、誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化されま

す。創造性を育む学びの実現のために、私たち教員がスキルを磨き、子どもたちが学習意欲をより高め、自分の思いや考えをしっかりと表現できる児童が増えるよう、今後も精進して参ります。

さいたま市立指扇中学校

校長 大河内 範 一

今年度から「一人1台端末」が本格導入されました。本校での取組の一部を紹介させていただきます。

【昨年度末の取組】

令和2年度末の2〜3月に、タブレットを先行導入し研究発表を行った小・中学校（市内2校、戸田市1校）に、管理職や教員が分担して視察に伺いました。授業参観だけで

なく、情報交換会も設定してもらい、教員の組織体制、教室での保管方法、校内の環境づくりなど、多面的に意見交換を行い、今後の実施に向けてイメージを明確に掴むことができました。

【Eバンジェリスト】

校内での推進の核となり、コンピュータのスキルに長けた教員「Eバンジェリスト」が各学年に所属しています。定期的な会議を行い、現在の進捗状況や課題、今後の取組等を確認して各学年に伝達し

次の活動を展開しています。

【今年度の取組】

「まずはタブレットを活用してみよう」を合言葉に、各教科等で様々なアイデアを出し合いながら、授業で積極的に活用しています。互いに声を掛け合いながら、可能な範囲で授業参観を行っています。また、授業の様子等は、写真に文章を添えてホームページで紹介し、情報発信も積極的に行っていきます。

【校内研修の実施】

1学期には、ICT支援員による研修を実施し、授業で活用できるソフトの使い方を

確認しました。夏休み中にはEバンジェリストによる研修を実施し、自分たちが1学期に研究し実践した事例を紹介し、他の教員の教育活動の参考になるようにしました。また、各教員の実践事例は、内容を共有するためのフォーラムを提示し、実践事例集としてまとめ、今後、活用できるようにしていくことを確認しました。

【市教研の一斉研修】

11月には一斉研修において、道徳の研究授業が予定されています。7月に講師の先生を招聘して道徳の研修を行いました。道徳におけるタブレット活用のメリットやデメリットが明確になりました。

【STEAM教育】

本校では令和3年度から3年間、さいたま市教育委員会の研究委嘱を受け、「STEAM教育」の研究に取り組みでいくことになっています。タブレットの活用が軌道に乗ってきたタイミングでGIGAスクールの実践と関連させながら、探究型の学びのさらなる構築を目指していきたいと考えています。

専門部の活動

今年度の第1回各専門部会が6〜8月に開催され、次のようなことが話し合われた。広報部

今年度は「会員だより」56号・57号を発行するが、まず各役員がどの行事等を取材担当するかを決めた。次に56号の内容について話し合った。

特集「さいたま市教育委員会の取組」については、『GIGAスクール等への取組』について市教委に要点をまとめ、現場の取組についても掲載することにした。

また、県退職校長会の本会のホームページの内容の充実を図ることにしても話し合った。

〈役員〉○入江知彦 小川啓 名倉稔夫 星美千也 松田泰成 宮川和夫 福島博子

幹事・菊地三郎 中山正一 眞嶋廣久 担当副会長・佐藤

田守康 渡部隆男 外園倫生

おめでとうございます

次の方が叙勲されました

春の叙勲 瑞宝双光章 上村 忠男氏

薫(○印は部長) 研修部

今年度は「コミュニティスクール導入に伴う学校の取組について」というテーマを掲げた。具体的には2学期の中間にさいたま市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課の竹居秀子先生から話を伺うことにしている。なお、この研修については12月の理事会において報告する。

〈役員〉○石田耕一 菊地豊 桑原昇 坂井俊夫 関修 中村秀男 柴崎邦夫 楨山正春 幹事・関根廣 菊池悦夫 駒宮寿夫 担当副会長・栗田憲昭(○印は部長) 福利厚生部

コロナ感染が収まらないことから、懇親旅行は今年度も中止することにした。史跡めぐりについては安全面を考慮し、大宮氷川神社を午前中だけ使って巡ることとした。

〈役員〉河田捷一 河原塚順 司 須田義博 柿岡文彦 原田守康 渡部隆男 外園倫生

大澤淳

幹事・秋山隆 ○金子有哲 関根俊幸 担当副会長・金子泰久(○印は部長代理)

令和3年度の役員

退任

会長 加々美健一 監事 中村克 理事 船越忠男・羽田悦夫・野澤高・田中弘・野口一

幹事 十・星野薫 三富健三・星野薫・小林成行

顧問 黒田春海・竹本昭剛・江原政雄 加々美健一

会長 藍川達雄 副会長 栗田憲昭・金子泰久・佐藤薫 監事 武井崔良・河原塚順司・中山亮

理事(新) 小林民司・外園倫生・横田守正・小川啓・近秀明

幹事(新) 柴崎邦夫・島村暁・益子聡・駒宮寿夫

◆幹事の事務分担 総務 溝口正己・渡邊正道

訃報

慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

金子勝美氏(88歳)

令和3年3月4日逝去

内田道夫氏(96歳)

令和3年5月5日逝去

原田三郎氏(96歳)

令和3年7月5日逝去

矢内 洋・益子 聡

会計 須田 博・渡邊朋久

島村 暁

広報誌の発行 菊地三郎 中山正一・眞嶋廣久

各種配布物 中山正一

懇親旅行・史跡めぐり

秋山 隆・金子有哲 関根俊幸

専門部会

〈広報部〉菊地三郎・中山正一・眞嶋廣久・佐藤 薫副会長

〈福利厚生部〉秋山 隆・金子有哲・関根俊幸・金子泰久副会長

〈研修部〉関根 廣・菊池悦夫・駒宮寿夫・栗田憲昭副会長

美術展の開催 柴崎邦夫・溝口正己・渡邊正道・益子 聡・矢内 洋

・佐藤 薫副会長 新入会員募集 溝口正己・矢内 洋・渡邊正道・益子 聡・関根 廣

ようこそ！

新入会員の紹介

この3月にめでたく退職された皆様、おめでとうございませう。次の8名の方が大宮退職校長会に入会されました。皆様のフレッシュな感覚とお力を、本会の発展のためにお貸しいただけますようお願ひいたします。

加藤明良 田中民雄 内田 宏 保高 智 中村英雄 松井 聡 竹居秀子 井山直之(敬称略)

編集後記



コロナ感染は沈静化せず、不要不急の外出自粛が求められる生活が続いています。このような中で、心身の健康に不安を抱かれています。方多いのではないかと思います。一日も早くコロナ禍が収束し、伸び〜と生活できる日がもどることが待たれます。

〈編集委員〉佐藤 薫(副会長) 菊地三郎・中山正一・眞嶋廣久